

タブブラウザにおける新規ページの表示方法とユーザビリティ評価

尾上紗野 上野秀剛
奈良工業高等専門学校情報工学科

1 研究目的

ユーザビリティとはハードウェアやソフトウェア、Web サイトの「使いやすさ」のことである。ユーザビリティの低い Web サイトでは、ユーザは欲しい情報を容易に見えないため、有用な情報を素早く見つけることのできるユーザビリティの高いページに人が集まりやすい。そのため、ユーザビリティの優劣がサイトの閲覧数に大きな影響を与えるとされている[1]。これまでの研究で、Web サイト作成者がユーザビリティを評価し、適切なサイトデザインを行うための指標や指針が提案されている[2]。

これらの指針の一つに「リンクを新規ウィンドウで開かない」というものがある[2]。Web ページではリンクの属性によって新規のウィンドウと既存のウィンドウのどちらに表示させるか設定できるが、一般的なユーザは多くの新規のページが既存のウィンドウに表示されると想定しているため、新規に開いたウィンドウに気づかず、ユーザビリティを低下させるとされている。

近年、インターネットを使用する際タブブラウザが主流となりつつある。タブブラウザ上で新規にウィンドウを開くリンクをクリックすると、新規のタブとして表示される。タブはウィンドウに比べ表示する際の画面上の変化が小さいため、ウィンドウより気づきにくい。本研究では、タブブラウザを用いた環境において、新規ウィンドウを開くリンクがユーザビリティに与える影響を調査する。

2 予備調査と被験者実験

本研究は、新規のタブで開くリンクの種類によってユーザビリティに対する影響が異なると仮定する。

そこで、まず一般的な市町村のWebサイトにおいて、新規タブで開くリンクを調べ、種類と割合を調査した。調査の結果を表1に示す。「割合」は各特徴のリンクが1か所以上あるWebサイトの割合を示す。

この結果から、ユーザは上位4種類のリンクを開く際、新規ページが開くと推測している可能性が高い。反対に下位3種類では、ユーザは新規ページで開くかどうか判断しかねているか、または新規ページで開くことを想定していないと考えられる。

表1 リンクの種類ごとの新規ページ割合

リンクの種類	割合	概要
文章内	90%	文章内にあるリンク
広告	85%	企業やイベントへのリンク
リンク群	85%	リンク一覧内のリンク
PDF等	80%	Web ページ以外のファイル
メニュー	50%	トップページのメニュー欄
更新履歴	15%	Web サイトの最新情報
サイト検索	10%	「検索」ボタンクリック時

表2 誤操作率

		リンクの開き方	
		新規タブ	既存タブ
ユーザの予想	新規タブ	11.8%	30.9%
	既存タブ	17.7%	3.5%

被験者実験を行う際、被験者には表1の結果を参考に、1)新規のタブで開くと想定される種類のリンクが既存のタブで開くリンクや、2)既存のタブで開くと想定されるリンクが新規のタブで開くリンク、想定通りに3)新規のタブ、4)既存のタブで開くリンクをクリックするタスクを与える。タスクを行う際の行動履歴をWebサイト上でのユーザの行動を可視化するシステム Webjig[3]で記録した。行動履歴から、新規のタブで開いているにもかかわらず戻るボタンを押したり、既存のタブで開いているにもかかわらずタブを消すといった誤まった行動を分析した。

3 実験結果

表2に実験で得た誤操作率を示す。表2より、ユーザの想定と実際のリンクの開き方が一致している場合に比べて、ユーザの想定と実際のリンクの開き方が異なっている場合の誤操作率が高くなっている。

実験より、被験者は、外部のページへ移動した場合など、メニューの表示がなくなる際、新規のタブで開かれたと考える傾向があることが分かった。また、全ページにメニューの表示がある Web サイトよりもフレームを用いてメニューを表示している Web サイトの方が誤操作率が低かった。これは、前者のサイトのリンクを新規で開いた場合、メニューの表示があるが、後者のサイトのリンクを新規で開いた場合、メニューの表示がなくなるため、被験者は新規のタブで開いたことに容易に気付いたと考えられる。

4 まとめ

本実験より、新規のタブで開くことが問題なのではなく、ユーザの想定と異なったリンクの開き方をすることが問題であると考えられる。Webサイト作成者はリンクを貼る際、実際のリンクの開き方とユーザの想定が一致するようなWebサイトの作成を心掛ける必要がある。

参考文献

- [1] 河崎宣史, “Webユーザビリティへの取り組み”, 情報処理, Vol. 44, No. 2, pp.163-168 (2003).
- [2] ISO 9241-11. 1998 Ergonomic requirements for office work with visual display terminals (VDTs) - Part 11. ISO, 1998
- [3] 木浦幹雄, 大平雅雄, 上野秀剛, 松本健一, “Webjig: ユーザ行動とユーザ画面の関連付けによる動的Webサイト利用者の行動可視化システムの開発および評価”, 情報処理学会論文誌, Vol. 51, No. 1, pp. 204-205, (2010).